

お母さんのぬくもりから

離れて初めての集団生活へ

小島 直美

木々が芽ぶき、桜の花が咲く四月、多くの人が学校へ、社会へと出発の時を迎えます。小さな子どもたちにも初めての集団生活へ第一歩を踏み出す時が来ました。

保育園、幼稚園は、それまで家で母親に守られてのびのびふるまっていた子どもたちにとって、楽し

みである一方とても大変な事の多い所なのでしよう。入園、その後の園生活にまつわる電話相談は乳幼児期の相談のかなりの部分を占めています。

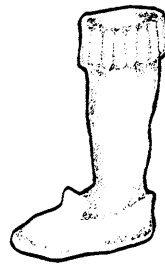
幼稚園に入れてもだいじょうぶ？

三年保育に入れようかどうかの悩みは夏頃に多く

聞かれます。まだオムツがとれない、甘えん坊ですぐ泣く、下の子がうまれたばかり、母親はもう一年手元におきたいが「二年保育じゃはみれ（仲間はづれ）にされるよ」と近所の母親に言われて迷ってしまう。その子その子の状況によって三年保育ならこんな良い面があるし、一方こんなマイナス面も考えられるね」と迷う母親の気持ちをもう一度きちんと整理していくと、この子にとってどうしてあげた方がいいのか、という視点が見えてきます。

二月、三月になると入園を控えての心配が寄せられます。すぐ友だちに乱暴するのが気になる、逆に内弁慶でおもちゃなどいつも譲ってしまう、と具体的な不安が聞かれます。お母さんの手から離れるのでいろいろ心配よね」と母親の気持ちを受けとめ、これからは子ども自身がいろいろな経験をする中で人とのつきあい方をしっかり学んでいけるはず。その手伝いは幼稚園の先生がしてくださいさるから」と話します。幼稚園の先生に対して緊張している母親

が、安心できて子どもを送り出せるといいと思いますから。



新しい生活で夜泣きや吃音が……

そしていよいよ入園。新しい生活であっという間の一か月なのでしようか。四月は相談の電話は少なく、五月の連休が明けた頃から入園後のものもろの相談がはいります。特に三年保育やさらにその前の準備保育（週に二日ぐらいが多いようですが）で

は、夜泣きをするようになった、甘えるようになった、吃音がでた、頻尿、夜尿、と新しい環境で精一杯頑張ってきた子どもたちの反応が訴えられます。ほとんどの母親はとまどいながらも無理ないなあと理解し、慣れるまでゆったり支えてあげたいと気持ちを語ってくれます。お友だちにいじわるされる、いじめられっ子になるのではないか、乱暴な子がいてよくぶたれる、「ぶたれたらぶちかえしていいの、ママ?」と問われて、今まで乱暴はダメと育ててきたのにどうしたらいいか、と相談された方もいました。

ママと一緒にいたい

三歳・三年保育に入園した女兒

入園当初は喜んで通園バスで通園していたのに、ゴールデンウィークを過ぎたら行きたくないと言いだした。ママと一緒にいたいから、と言う。母親は就業していて、それまでも祖母に預けられてママ

行っただけと言っていたのに。

幼稚園と相談して朝は母親が歩いて送ることにした。幼稚園に近づくと「抱っこ」と甘え、それでも幼稚園に着けば先生に抱かれて離れられる。

ひとりっ子で祖父母宅には曾祖母、叔母もいておとなばかりの中で育ち、近所に同年齢の子もいなくて子ども同士で遊んだ経験もほとんどなかった。

幼稚園でも子どもの輪の中に入れていない様子だし、先日参観日に見ていたら皆のお遊戯の中にも入れずひとり離れて見ていた。先生にくっついていることが多い。

この相談のように地域によっては子どもが少なく、公園に行っても同年齢の子どもがいないので子ども同士遊んだ経験が少ないうえに入園する子どもも多いのでしょうか。さらにこの母親にいろいろ聞いてみると、母親が働いていたため育児の中心になるおとながはっきりしないまま大勢のおとなに「かま

わかれて「きたとのこと。初めての子ども集団の中で緊張にさらされて帰ってきてても、しっかりした心の寄りどころがなかったのかもしれない。今になって母親は言っていました。が、「ママと一緒にいたい」という気持を受けとめてあげて、まず子どもが本当に安心できる場所を確保してあげ、そこから外に出る力を育めるといいと理解してくれました。そして外での子どもたちとのつきあいも、焦らずだんだんに慣れていけるように、この一年は練習のつもりで、と話しあいました。

あした、幼稚園あるの？

やはり三歳の男の子

三年保育入園後、四月は夜うなされて泣いていた。朝はやく目覚めて眠れない状態、お弁当も初めの十日はまったく手がつけられなかった。トイレにも行けず朝八時から帰宅する三時までずっとがまんしてきてしまう。一週間前から毎晩おねしょをす

る。帰ってから寝るまで「あした、幼稚園あるの？」と聞く。母親としては休ませたらこのまま行かれなくなるのではと心配。

友だち遊びの経験も少なく、小さい子集団に圧倒され緊張している。いじめられたり蹴られたりすると言う。二十二人のクラスに先生一人で目が届かないことも多いのか、おやつは他の子にとられちゃうと言う。

入園して一か月半、困りきった母親の気持を聴いているうちに、さらにいろいろなことがわかってきました。母親自身が神経質で、何でも手をかけて「きちんと」「きれいに」育ててきてしまった。汚れるのが嫌で食事もひとりで食べさせずに母親が食べさせてきていた。実は自分も幼稚園の時お弁当を食べられなくて母親に付いてきてもらっていた「問題児」だったと語る。六か月前には第二子出産。その四か月後、母親の母が急死。精神的にまいっている

る。この子にもこれまで以上に「お兄ちゃん
しよ」と叱ることも多かった。幼稚園のことでグズ
グズ言う「じゃあやめちゃえよ」と思わずひどい
ことを言ってしまう、そうすると「幼稚園に行くか
らママ叱らないで」と子どもが言う。この子のつら
い気持ちをわかってあげられなかった。忙しくて手
かけられない下の子ののびのびした様子を見ている
と、この子にはこういうふう自由にさせてあげら
れなかったなあと思う。

そんな母親の気づきを支えながら話していくと、
自分が責められるような気がして幼稚園側に相談で
きずにいたが、今、この子を共に育ててもらえる人
と考えて先生に相談してみる、と今後への覚悟が語
られてきました。「又困ったら聞いてくださいね」
と言って終わったこのお母さんからは、その後電話
がありません。きっと幼稚園の理解に支えられて楽
しく園生活を過ごせるようになったと信じていま
す。



お弁当、はやく食べていっばい遊んだよ

秋になって急にお弁当が食べられなくなって吐い
てしまう、との相談もありました。お弁当は残さず
食べる約束、食べ終わった順に遊んでもいい約束の
ある幼稚園で、食の細いこの子には負担が積もって

いたのかもしれない。やはり先生と相談すること
をすめ、しばらくは果物だけのお弁当の許可をい
ただいて、「一番に食べ終わって、いっばい遊べた
よ」のうれしそうな報告があった後、お母さんもお
星さまのサンドウィッチなど工夫し、遅ればせなが
らだんだんに楽しいお弁当時間が過ごせるようにな
りました。

このお母さんもお姉ちゃんの子育てで悩んだ時期
があり、又この子も失敗したら、と意気込みすぎた
子育てをふりかえることができました。三回に継続
しての電話相談の中でまず母親が受けとめられて励
まされていくことで子どもへのゆとりができ、子ど
もの気持に添って幼稚園側と話しあっていけること
ができました。

問題の解決にむけての転園

A子ちゃん、五歳

年中の二月に登園渋りの相談。もともと近所の同

年齢の友だちにいじめられることが多かった。口で
いろいろ言われたり、仲間はずれにされたり、自転
車のベルのカバーを盗られたり。母親が相手の子や
親にそれらのことを話すと、ただ口で謝まるだけの
母親や「うちの子はそんなことしない、誰かに乗せ
られてしたのかも」と認めない母親との間で、か
えって子どものケンカに親がでて、と相談してきた
母親の方が気まずい立場になってしまった。幼稚園
でも先生の見えない所でいろいろあったらしく、
二学期から時々頭が痛いと言った。

一回目の相談では母親の感じている息づまった状
況を理解し、では今何ができるのかを話しあうと、
A子ちゃんの気持の支えになること、幼稚園の先生
に冷静に話すこと、相手の親たちには距離をとるこ
と、他の地域に母子共友だちを作ることに、相手の子
たちにもあたたかいまなざしを持って、と母親自ら
課題を整理した。

約二週間後二回目の相談。その後登園した日も

あったが休みがち。幼稚園には理由も書いて休ませたが、四日ぶりにやっと何とへ行けた時に「三日も休んじゃってエー」と言われてショックだった。幼稚園側は相手の親に「子どもはそういうことを経験しながら大きくなるのに」と話したらしく、相手の親たちからは「あてつけがましく休んで」と言われてしまう。

たまたま他の幼稚園で新入園児の体験入園をしているとの話を聞き、事情を話してみたら是非とのことで行かせてみた。みちがえる程元気になり明るく楽しく通園している。近所で行っている人に話を聞くと園長先生のお話の内容、日々の先生の子どもへの対応の仕方、月一回の母の会のきめ細かさなど今までの幼稚園とのあまりの違いに驚いている。思いついて転園しようかどうか迷っている。

木の芽がふくらむのに寒さも必要だけど共に耐えたり支えたりしたりの環境として新しい幼稚園を望んでいると母親の気持も決まりかけていること、A子ちゃ

んも今は知っている友だちのいるクラスでの体験入園だけど四月からは新しいお友だちのクラスになることも納得していること、などから転園が適切な印象を受けた。

そして五月に三回目の電話。これは相談というより報告で、新しい幼稚園での生き生きとした生活が語られる。A子ちゃんだけ知らない友だちの中に放りこむのではなく、母親も新しいスタートを、と母の会の委員をすすんで引き上げた。きのうは遠足で



母子共あたたかい雰囲気の中ですばらしい一日だった。

子どもの成長を皆で協力して支えたい

前述のいくつかの相談と違ってこの相談は残念ながら幼稚園側と母親が共に問題の解決にあたれず、転園という不安をも抱えた状況で解決の糸口が得られませんでした。実は相談の多くは幼稚園に対して母親が何らかのマイナス感情を持っています。幼稚園と一緒に何らかの問題に取りくめていければ電話相談は必要ないわけですね。

確かに、幼稚園から泣いてでもなんでもともかく連れてきてくださいと言われ、母親が「まるで私が虐待でもしているのかと自分で思う程」の状態で登園を嫌がる子どもを無理やり通園バスに押しこむ話を聞くところからも胸が痛みます。又、パジャマのままで連れてきてくださいと言われたが自分の感情としてどうしても納得できないという母親の気持ちも

わかります。まず混乱したり疲れきっている母親を労い、感情面をしっかりと受けとめます。子どもの気持ちもわかるし幼稚園からは母親が責められているように感じてしまうし、もうどうしていいかわからないという困り感を理解します。それから状況をもう一度整理していくと、幼稚園とどこにポイントをあてて話しあっているかが見えてきます。第三者的立場で幼稚園と母親との橋渡しができます。困っていた母親が自らの力で解決に向けて幼稚園と話していることを援助すると言った方が適切かもしれません。

家庭の中で母親に守られて育ってきた子どもが初めて経験する集団生活、一見困ったことに思われる出来事は成長していく子どもの大切な時と考えて、皆で協力しあって乗り越えて行きたいものです。

(神奈川県横須賀児童相談所電話相談員)